

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和4年度技術情報第8号（サツマイモ基腐病）について（送付）

収穫後のサツマイモほ場を調査したところ、耕耘が不十分なほ場において塊根等の残さから萌芽した茎に基腐病の再発が認められました。このようなほ場は、残さ量が多く、土壌中の病原菌量も多い傾向が認められました。残さは次作の伝染源となるので、速やかに耕耘して分解を促すなど、ほ場に病原菌を残さない対策が重要です。



また、苗床でも、残さ持ち出しと土壌消毒の実施など翌年の防除対策に努めてください。

なお、本情報は病害虫防除所ホームページ（www.jpnp.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

令和4年度 技術情報第8号

1 農作物名 サツマイモ

2 病害虫名 サツマイモ基腐病 *Diaporthe destruens* (Harter) Hirooka, Minosh. & Rossman

3 収穫後のサツマイモほ場（残さ処理の実施ほ場と未実施ほ場の比較、10/20調査）

- （1）薩摩半島の定点ほ場調査では、30%のほ場で収穫後に耕耘が未実施であり、当該ほ場はすべて再萌芽が認められた。また、耕耘実施ほ場でも29%のほ場に再萌芽が認められた（表1）。
- （2）収穫後に耕耘等による残さ処理未実施ほ場（図1）では、表面に乾燥・集積した残さや、茎及び塊根から再萌芽し、本病の再発がみられた（図3）。
- （3）収穫後の耕耘が不十分なほ場でも、本病の再発がみられ、残さから本病が再発し、茎や塊根で病原菌が増加する（図2、図3）。
- （4）収穫後に耕耘未実施ほ場では、実施ほ場よりも残さ量が多く残さはそのまま形状をとどめており、分解に時間を要するものと考えられる（図4）。
- （5）さらに、収穫後に耕耘未実施ほ場では、実施ほ場よりも病原菌量が多かった（図5）。これは、残さからの再萌芽による本病の再発や残さ中で病原菌が生存しやすい状況にあるためと考えられる。

4 今後の防除対策

残さで病原菌は越冬し、次作の伝染源となる。発生が見られたほ場では、収穫後に以下の防除対策を徹底する。

<本ぼ>（収穫後の残さ対策）

ア 屑イモや落梗等の残さは、収穫を終えたら速やかにすき込みを行う。

イ すき込み後も、定期的（1回／月程度）に耕耘して分解を促す。

<育苗床>

- （1）残さをほ場外に持ち出し、適切に処分する。
- （2）残さ持ち出し後、複数回耕耘する。
- （3）土壌消毒は、適正な土壌水分の条件下で、殺菌効果のある剤（バスアミド等）で実施し、処理後直ちに必ずビニール等で被覆する。また、消毒後は、ガス抜きを十分に行う。

表1 薩摩半島の定点ほ場における収穫後の耕耘状況とほ場での再萌芽状況 (10/20時点)

内容	調査ほ場数	収穫後の耕耘有無			
		有		無	
		ほ場数	割合 (%)	ほ場数	割合 (%)
調査ほ場数	20	14	70	6	30
内 再萌芽ほ場数		4	29	6	100



図1 収穫後に耕耘未実施ほ場



図2 収穫後の耕耘が不十分なほ場 (再萌芽あり)

(A) 残さの乾燥・集積



(B) 罹病塊根からの再萌芽



(C) 再萌芽の基腐病の再発



図3 収穫後の耕耘が不十分なほ場での罹病残さと再萌芽した茎の基腐病の再発状況

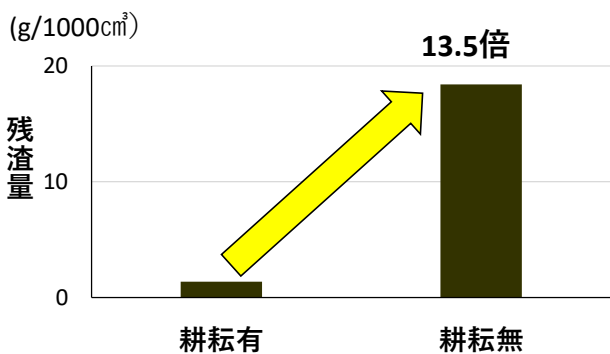


図4 収穫後耕耘の有無による残さ量の比較

- ※1) 残さ量: 25cm×10cm枠・深さ10cmの2か所の土壌について、5mm角目篩で振るい、篩内のかんしょ残渣の生重量を測定
- ※2) 9月中旬頃収穫ほ場、耕耘有2ほ場、耕耘無2ほ場の平均
- ※3) 耕耘回数1~2回

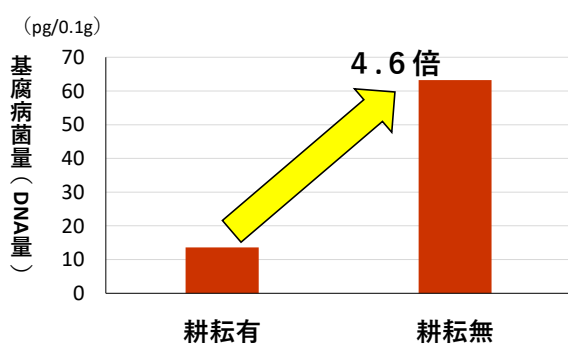


図5 収穫後耕耘の有無による土壌中の基腐病原菌量の比較

- ※1) 検定土壌: 左記土壌を2mm角のナイロンメッシュで振るい十分に混和した土壌

サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、鹿児島県 (https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20221018104909-1.pdf), 農研機構 (https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotator03.pdf) をご覧ください。



鹿児島県
サツマイモ基腐病防除
対策マニュアル(第3版)
令和4年10月改訂



農研機構
サツマイモ基腐病の
発生態態と防除対策
(令和3年度版)